

オフィシャルイベント

Tokyo Docs 2022

TokyoDocs

会 期：2022年11月1日（火）～2日（水）（ピッチイベント）／
3日（木）～15日（火）（個別ミーティング）／18日（金）（受賞式）

会 場：オンライン

主 催：（特非）Tokyo Docs

共 催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟

後 援：総務省／経済産業省／東京都／国際交流基金／

日本放送協会（NHK）／（一社）日本民間放送連盟（民放連）／

（特非）放送批評懇談会／（一社）放送人の会／

（一社）全国地域映像団体協議会（全映協）／

（公社）映像文化製作者連盟（映文連）

対 象：放送関係者、一般、学生

公式サイト URL：https://tokyodocs.jp/

総来場者数（参加数）：236人

ピッチ企画・作品数：企画19 作品8

内訳：（国内：企画9 作品6／海外：企画10 作品2）

参加国と地域数：19の国と地域

ディビジョン・メーカー数：60人

内訳：（国内バイヤー：11人 海外バイヤー：49人）

商談件数：251件



EventHub ページ



ピッチングの様子

■開催内容

Tokyo Docs 2022は12回目の開催として11月1日から18日の会期でオンライン開催した。2020年から始まり3回目のオンライン開催となる今回は、ピッチイベントから個別商談まで1つのログインで参加できるEventHub社のシステムを採用した。海外からは19か国・地域から49名のゲストがオンラインで参加し、日本とアジアのドキュメンタリー企画19本のピッチ、短編作品8本の上映やプレゼンテーションを行った。

1日・2日ではドキュメンタリー番組企画提案とショート・ドキュメンタリーのピッチングを行い、提案映像はトレーラーとプレゼンテーションを合わせたもので企画提案者が事前に収録し、日英字幕付きで配信した。ベルギーのプロデューサーがオンラインでモデレーターを務め、配信会場にいる日本のプロデューサーが運営を行った。会場で参加した提案者はピッチング映像を紹介した後、モデレーターの進行により、国内外のディビジョン・メーカーとの質疑応答という流れで実施した。

企画提案者とディビジョン・メーカーの個別ミーティングは、資金調達に向けた最初の話し合いとなる重要なものであり、オンラインの特性を生かし2週間にわたり実施した。今開催では、11月3日から15日までの期間で251件のミーティングが行われた。

■2022年度の新規取り組みとその成果・特色

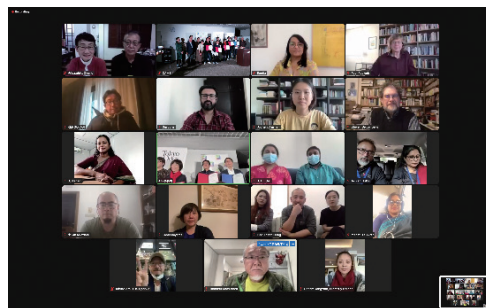
海外ゲストに向けて自身の企画や作品を魅力的に訴えるためには、プレゼンターのピッチ力が重要になる。そのために、全てのピッチ提案者を対象にして7月から開催直前まで個別トレーニングを行った。今年は講師を1名増員し3人体制で1企画あたり10時間かけて、ピッチングに必要なノウハウを学んだ。結果、完成したピッチ動画を視聴したゲストからは、提案企画のクオリティーや国際性において高評価をいただいた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数・成果

大和証券グループ本社、ヤフーと連携して、短編ドキュメンタリー作品の募集、ショート・ドキュメンタリー・ショーケースの上映作品の選定が実現した。また、受賞式では、フランスのSunny Side of the Doc、インドのDocedge Kolkataなどの海外ドキュメンタリー祭とも連携し、各イベントへの招待状の授与も行った。引き続き海外映画祭との連携を強め、日本コンテンツや制作者をより多くのピッチ舞台に立てるような仕組みを構築していきたい。



配信会場の様子



ハイブリッド受賞式の様子



ハイブリッド受賞式の様子